

令和 5 年 6 月 20 日現在

機関番号：34406

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2022

課題番号：16K02022

研究課題名（和文）越境するイスラーム紛争・チベット問題に関する実証研究：「宗教NGO」の視点から

研究課題名（英文）An Experimental Study on Cross-Border Islamic Conflict and Tibetan Issue -- from the Viewpoint of Religious NGOs

研究代表者

川田 進（KAWATA, SUSUMU）

大阪工業大学・工学部・教授

研究者番号：10288756

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,500,000円

研究成果の概要（和文）：中国の宗教NGOは主に政府が主導するものであるため、外国人研究者がNGOに接触することは困難であることがわかった。そこで、民間の宗教NGOであるヤチェン修行地を訪問し、修行地の活動を報告できたことは大きな成果である。とりわけ高僧アソンを中心とした社会貢献活動は、今後の中国宗教NGOの動向を分析する上で重要な役割を果たしている。その他、タイやベトナムのイスラームNGOが実施している社会慈善活動を観察し、中国の活動と比較した結果、中国の宗教政策がNGOの活動を阻害していることが判明した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

中国や台湾の宗教NGOを訪問し、関係者からNGOの役割や活動内容について聞き取りを行ったが、調査が短期間であることや中国の政治情勢という壁に阻まれ、成果は予想を下回った。しかし、社会参加の宗教論を考える上で、タイやミャンマーの仏教寺院や高僧の活動を観察できたことは大きな成果である。2020年に台湾で宗教NGOの調査を複数回行う予定であったが、コロナ禍により実施できなかった。

研究成果の概要（英文）： Since religious NGOs in China are mainly government-led, it was found difficult for foreign researchers to contact NGOs. Therefore, it was a great achievement that I visited Yarchen Gar, a private religious NGO, and was able to report on the activities of the training grounds. In particular, the social contribution activities centered on the high priest Asong play an important role in analyzing future trends of Chinese religious NGOs. In addition, as a result of observing social charity activities carried out by Islamic NGOs in Thailand and Vietnam and comparing them with those in China, it was found that China's religious policies hinder the activities of NGOs.

研究分野：アジア地域研究

キーワード：宗教NGO チベット問題 イスラーム紛争 宗教政策 現代中国

1. 研究開始当初の背景

現代中国のアキレス腱は宗教問題と民族問題である。とりわけ「イスラーム紛争」と「チベット問題」が長期化かつ深刻化している。そして、これらの問題は中国から周辺国へ徐々に越境し、広域化が進行中である。本研究は、中国を核とする東アジアに焦点を当て、イスラームとチベットの民族・宗教問題を越境活動と宗教 NGO という視点から読み解き、解決の糸口を提示することを目指した。

2. 研究の目的

本研究の目的は、仮説「民族・宗教紛争を読み解く鍵は、宗教 NGO の草の根活動にある」を証明することであった。申請者は過去 10 年間に、民族・宗教紛争に関する科研費課題研究を積み上げてきたことを踏まえて、4 年間で文献調査と東アジア現地調査を継続し結論を出すことを目指したが、結論を出すには至らなかった。

研究の柱は(1)越境する「イスラーム紛争」「チベット問題」の構造を比較検討する、(2)宗教 NGO という視点から、穏健な「宗教ネットワーク」「民族コミュニティ」形成の糸口を明示し、紛争解決の有効な方策を提示することであった。

日本社会が抱える弱点の一つは、「イスラーム社会への理解不足」であり、本研究課題の成果が、民間企業や個人が海外で活動する際の安全確保に資することも目指した。

3. 研究の方法

(1)文献資料の作成

「中国共産党の宗教政策とチベット政策」に関する文献調査を行った。

(2)雑誌バックナンバー、書籍購入

雑誌「中国宗教」(宗教政策)、「法音」(中国仏教)、「中国天主教」(天風)(キリスト教)のバックナンバーの購入を試みたが、中国側の事情により一部の入手にとどまった。「イスラーム紛争」「チベット問題」「宗教 NGO」及び関連分野の書籍を購入した。

(3)海外調査

中国、台湾、香港、ベトナム、タイなどで、宗教 NGO に関する調査と観察を行った。

(4)研究成果の発表

各種学会や研究会にて研究成果の報告を行う。著書、論文を公表した。

4. 研究成果

(1)文献資料の作成

中国共産党の宗教政策研究の成果として、「明暗を分けたチベット仏教の高僧 - - 中国共産党の宗教政策と権利擁護の主張」「愛国的宗教指導者の悲哀 - - 二〇一三年新疆ウイグル自治区イスラーム調査」(『現代中国の宗教変動とアジアのキリスト教』所収、北海道大学出版会、2017 年)を公表した。

(2)雑誌バックナンバー、書籍購入

雑誌「中国穆斯林」、「中国宗教」のバックナンバーの一部を購入し、現在中国宗教の動向を把握した。「中国天主教」「天風」のバックナンバーは入手困難であった。研究課題を遂行する目的で、中国四川省、雲南省、青海省、甘肅省の宗教状況、四川省甘孜藏族自治州地方志に関する書籍を購入した。

(3)海外調査

以下の国と地域にて、チベット問題、イスラーム紛争、宗教 NGO に関する調査を実施した。

- ・2016 年、ベトナム(ハノイ市、ラオカイ省)、中国(雲南省)
- ・2017 年、中国(青海省、四川省)
- ・2018 年、中国(青海省、四川省、カンボジア(シェムリアップ)、ベトナム(ホーチミン))
- ・2019 年、ミャンマー(マンダレー、バガン)、インド(アムリトサル)、台湾

(4)研究成果の発表

- ・2016 年、國學院大學が主催したグローバル化国際研究フォーラムにて、「中国共産党の宗教政策とグローバル化」と題する報告を行った
- ・2019 年、論文「東チベットにおける統一戦線活動と政教関係 - - キルティ寺とラルン五明仏学院を中心に」(『中国 21』)を公表した
- ・2020 年、論文「現代中国における宗教の震災救援活動と記憶の継承」(『被災記憶と心の復興の宗教社会学』所収、明石書店)を公表した
- ・2020 年、論文「現代中国の政教関係と「宗教と和諧」政策の動向」(『アジアの公共宗教』所収、北海道大学出版会)を公表した
- ・2020 年、論文「現代中国におけるチベット仏教と漢族の交流と課題」(『中国・台湾・香港の現代宗教』所収、明石書店)を公表した

- ・2020年、報告書『「旅行人ノート チベット」原図資料集』（大阪工業大学）を公表した
- ・2021年、論文「チベット仏教ヤチェン修行地における「宗教の中国化」政策」（『近代東アジアと日本文化』所収、銀河書籍）を公表した

(5)現地調査の成果

7年間にわたる研究期間の中で最も大きな成果が得られた調査は、2018年9月ヤチェン修行地（中国四川省）で行ったものである。そこはチベット文化圏の中で最大規模（修行者数推測2万人）の修行地である。場所は四川省甘孜州白玉県。甘孜からバスで3時間の距離だ。2004年以降、私は7回短期調査を重ねてきた。この修行地はニンマ派の高僧アチュウ・ラマ（1927-2011）が1985年に開いたものである。

アチュウ・ラマは「人の来世を見通す力」を持つと信じられた宗教カリスマの一人だ。学問の力と呪術の力が多くの出家者を魅了し、ラルン五明仏学院（中国四川省甘孜州、以下ラルンガル）同様に宗派を問わず修行者を受け入れており、漢人の弟子も多数いる。

ラルンガルとヤチェンは、信仰という地下水脈で結ばれている。2001年にラルンガルが肅正を受け尼僧が放逐された際、ヤチェンが彼女たちの受け入れを表明した。2018年以降のラルンガル改造計画により多くの尼僧が行き場を失っているが、ヤチェンは受け入れの姿勢を示さなかった。信仰の地下水脈というパイプを政府が外したからだ。

私が初めて訪問した2004年当時、ヤチェンには電気もガスも水道もバスもなく、まるで尼僧難民村の様相であったが、高僧に見守られた修行者集団には笑顔があふれていた。2011年に逝去したアチュウ・ラマに替わり、現在、後継者のアソン・リンポチェが修行地を束ねている。アソン・リンポチェの悩みは、地元政府が着々と進める観光化政策である。甘孜ヶサル空港が完成後、多数の漢人観光客がヤチェンに押し寄せることが予想されている。



【写真左】解体撤去される前のヤチェン修行地の尼僧居住区（2018年9月撮影）
 【写真右】アチュウ・ラマ逝去後に設置された記念堂（2018年9月撮影）

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 川田進	4. 巻 10
2. 論文標題 中国共産党を“熱愛”したチベット仏教の高僧	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 連環画研究	6. 最初と最後の頁 108-127
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 川田進	4. 巻 1
2. 論文標題 現代中国の政教関係と「宗教と和諧」政策の動向	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アジアの公共宗教 - - ポスト社会主義国家の政教関係（北海道大学出版会）	6. 最初と最後の頁 3-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 川田進	4. 巻 49
2. 論文標題 東チベットにおける統一戦線活動と政教関係 キルティ寺とラルン五明仏学院を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中国21	6. 最初と最後の頁 91-109
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 川田進	4. 巻 1
2. 論文標題 中国共産党の宗教政策とグローバル化	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『国際研究フォーラム東アジアのグローバル化と宗教文化報告書』	6. 最初と最後の頁 7-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 川田進
2. 発表標題 Contemporary Tibet: CCP 's Religious Policies and Emergence of Religious Space in Eastern Tibet
3. 学会等名 Brown Bag Lecture, Columbia University Weatherhead East Asian Institute (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川田進
2. 発表標題 「宗教と和諧」政策に見る中国の公共宗教論
3. 学会等名 日本宗教学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 川田進
2. 発表標題 中国の宗教政策と社会貢献の動向 2017年中国共産党大会を中心に
3. 学会等名 宗教と社会貢献研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 川田進
2. 発表標題 東アジアのグローバル化と宗教文化
3. 学会等名 東アジア国際ワークショップ（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 加藤斗規	4. 発行年 2021年
2. 出版社 銀河書籍	5. 総ページ数 610
3. 書名 近代東アジアと日本文化	

1. 著者名 川田進	4. 発行年 2020年
2. 出版社 大阪工業大学	5. 総ページ数 72
3. 書名 『旅行人ノート チベット』原図資料集	

1. 著者名 櫻井義秀	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 341
3. 書名 『中国・台湾・香港の現代宗教 - - 政教関係と宗教政策』	

1. 著者名 川田進	4. 発行年 2019年
2. 出版社 集広舎	5. 総ページ数 221
3. 書名 天空の聖域ラルンガル - - 東チベット宗教都市への旅	

1. 著者名 三木英	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 219
3. 書名 被災記憶と心の復興の宗教社会学	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------